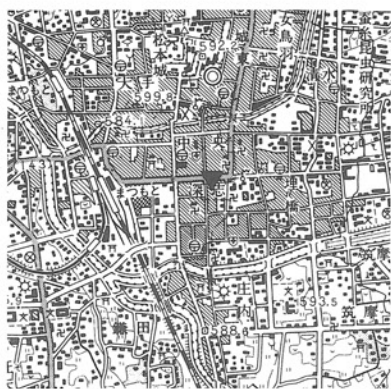


まつもとじょうかまち みやむらまち
長野・松本城下町跡宮村町

- 1 所在地 長野県松本市深志三丁目
- 2 調査期間 第二次調査 二〇〇四年(平16)三月
- 3 発掘機関 松本市教育委員会
- 4 調査担当者 竹内靖長・菊池直哉
- 5 遺跡の種類 城下町(武家屋敷)跡
- 6 遺跡の年代 一八世紀～一九世紀前半
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(松本)

松本城下町跡宮村町は、松本城の南東に位置し、親町である中町の枝町である。この町は職人町としての色合いが濃く、桶屋・屋根屋などの多くの職人が居住していた。また、町の南側には天正一八年(一五九〇)から慶長一八年(一六三三)にかけて石川氏が城下町整備をした際、城下町南の入口警護のために、徒士屋敷が建設された。

今回の調査地は、その徒

士屋敷跡の一つにあたる。調査の結果、一八世紀から一九世紀前半までの整地層を二層確認した。検出した遺構はピット・土坑・溝などで、土坑は敷地奥に掘られた廃棄土坑群と考えられる。出土遺物も多種多様なものがあり、下級武士の生活様相の解明に良好な資料を得ることができた。

木簡は、第一検出面(一九世紀前半)の土坑一から一点出土した。共伴遺物には、木製品(円板・扇子)がある。

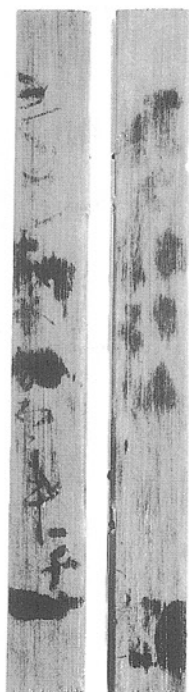
8 木簡の釈文・内容

(1) 〔 〕

「 嘉永五年 子 」 189×(21)×7 081

墨痕は確認できるものの、判読できない文字が多い。右側面に竹釘が残ることから、欠損と考えられる。左側面は加工痕が明瞭で、欠損ではないが、文字の全形が遺存していないため、二次的な加工である可能性も考えられる。

(太田万喜子)



赤外線写真